

高体連ボクシングニュース vol.7

平成30年8月7日発行
全国高体連ボクシング専門部

平成30年度全国総合体育大会ボクシング競技大会 第72回全国ボクシング選手権大会 最終日 結果

赤コーナー					青コーナー			
No	階級	選手名	所属	県名	結果	選手名	所属	県名
1	P	○荒竹 一真	鹿屋工業	鹿児島	WP5-0	×平野 拓真	浪速	大阪
<p>1年生ながら俊敏な動きで相手をかく乱し、決勝まで上がってきた荒竹、迎え撃つ選抜チャンピオンの平野の一戦。1R開始早々荒竹は一瞬のスキを見逃さず、カウンターパンチをヒットさせその後も出足鋭い攻撃でラウンドを支配していく。対する平野も右のロングフック等を多投し、攻め方に工夫を凝らし、攻めていく。最終ラウンドに入り、両者積極的に打ち合うが、荒竹は上体をうまく動かし、攻撃をかわし、パンチを返す展開であった。判定は荒竹が1年生王者となり、これから新たな歴史を作っていくことだろう。</p>								
2	LF	×藤田 時輝	武相	神奈川県	WP1-4	○堀川 龍	作新学院	栃木
<p>藤田は第1シードを破って勢いに乗り、決勝までコマを進めた。対する堀川は第2シードの自信を持ち、力強いボクシングでここまで勝ち上がってきた。技術とパワーの対決、1R堀川のパワーボクシングが藤田を後ろに下げ、パンチを打ち込んでいく。藤田もカウンターを狙い、チャンスがうかがう。2R3Rに入るも堀川の前に出るボクシングは変わらず、ガードの上からでも強いパンチを叩き込む。判定は堀川が勝利し、作新学院の学校対抗の部優勝に大いに貢献した。</p>								
3	F	×福来 龍神	江南義塾	岩手	WP1-4	○梶原 嵐	崇徳	広島
<p>大波乱のフライ級。第1、2シードが初戦で敗れ、誰が優勝するかわからない試合。福来はここまで危なげない試合で勝ち上がり決勝まで来た。対する1年生梶原は、準決勝でライバルの矢野(愛媛)に競り勝ち、悲願の優勝を目指している。1Rから梶原は福来にも見事なステップでかわし、すかさずパンチを叩き込む。福来も何とかパンチを当てようとするが、梶原の動きに翻弄された。3Rラスト10秒福来も最後の力を振り絞り一気に詰め寄るが、一歩及ばなかった。</p>								
4	B	×根本 元太	作新学院	栃木	WP0-5	○吉田 黎斗	伊勢崎工業	群馬
<p>フライ級と同様、シード選手が敗退し波乱が起こったバンタム級、関東ブロックの2名による決勝戦となった。根本は作新の前へ出るボクシングで戦う。対する吉田は、しっかりリードをあわせ、ワンツースを叩き込む。ラウンドを重ねるにつれて吉田のボディやアッパーなどの多彩な攻撃がヒットし、じりじり追い込む。根本も右のストレートを放つもあと一手が足りない。注目の判定は吉田の手が上がった。</p>								
5	L	○堤 麗斗	習志野	千葉	WP5-0	×石井 渡士也	花咲徳栄	埼玉
<p>1年生の堤は、昨日の堤(宮崎)の激闘の疲れも見せず、軽いステップワークでリズムをとり、高速のリードパンチ、左ストレートを放つ。対する石井も昨日木谷(大阪)との熱戦のあとでも、最後の決戦に積極的なボクシングを展開した。1、2Rは、互いにいいところが随所に見受けられ、判定も割れるが、3R堤がギアをチェンジし、早い展開でパンチを叩き込む。判定は堤が勝利し、今大会3人目の1年生チャンピオンが誕生した。</p>								
6	LW	○由良 謙神	芦屋学園	兵庫	WP4-1	×森本 浩	作新学院	栃木
<p>由良はスピードのあるパンチで着実にパンチをヒットさせる。森本も少し大ぶりのパンチであるが、とても威力がある。しかし、そのうち終わりを由良がすかさずパンチをヒットさせ有利に試合を進める。2R3Rも同様な展開で由良がラウンドを支配し、悲願の優勝を成し遂げた。</p>								
7	W	○宇佐美正パトリック	興国	大阪	不戦勝ち	×黒田 丈二郎	崇徳	広島
<p>宇佐美正パトリックは、昨年度に続いて階級は違うが、チャンピオンとなった。黒田はまだ1年生、来年度の大会では雪辱を果たしてくれることだろう。</p>								
8	M	×野上 昂生	鹿町工業	長崎	WP1-4	○須永 大護	駿台学園	東京
<p>今年のインターハイの最後の試合、1Rまず先行したのは須永、右ストレートをしっかりとヒットさせる。野上も相手の外側に回り込み、左ストレートのタイミングをうかがう。2R野上のワンツースがヒットし、距離を詰めボディ攻撃などで須永を追い込む。しかし須永は、自分のスタイルを貫き、ワンツースを力強く放ち、ポイントを奪っていく。注目の判定は須永がミドル級を制した。</p>								